

## 「私のところに来なさい」

マタイによる福音書 14章 22-33節

森島 牧人 牧師

今日は四本の蠟燭に火が灯されました。いよいよ来週の日曜日、クリスマスがやって来ます。今日の聖書は、嵐の湖上を漂っている弟子たちの舟に主イエスが近づいて来られる物語で、まさにアドベントス（近づいて来られる）のこの時にふさわしいテーマだと思われます。

聖書は「それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。」（マタイ 14：22・23）と始まっています。主イエスはこの少し前、五つのパンと二匹の魚で、男たちだけでも五千人という人々を満腹にさせるという大きな奇跡を行われていました。満腹にしてもらった人々は奇跡を起こされた主イエスを褒めたたえ、弟子たちは師がもてはやされることで得意になっていました。おそらく、みんな興奮の渦の中にいたということでしょう。

このような状況の中で、主イエスがされたことは予想外のことでした。鼻高々の弟子たちをむりやり舟に乗せて向こう岸へ向かわせ、興奮冷めやらぬ群衆を解散させ、自分は祈るために一人で山に登られたのです。この時主は、神の国の到来を告げる御言葉よりも満腹にしてもらったことの方に関心が向いてしまっている群衆と有頂天になっている弟子たちの弱い心のために、夜を徹して祈っておられたのです。実は、主イエスは今も私たちの弱い心のために祈ってくださっていて、私たちは主のその徹夜の祈りによって支えられているのです。

聖書は「ところが、舟は既に陸から何スタデイオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。」（同 14：24）と続きます。これはガリラヤ湖上のことですが、私も幼い頃教会のキャンプで行った本栖湖で怖い思いをしたことがあります。周りを山に囲まれている湖の場合、湖面を吹く風は非常に複雑で、静かだったのに急に嵐のようなことになるのです。弟子たちが漕ぎ出した時も穏やかだったのでしょうか。ところが陸から五、六キロというところで逆風のため動かなくなり、激しい波に襲われることになったのです。それは湖に慣れているはずの元漁師の弟子たちをしても、どうにもならないほどのものでした。

しかしその時、弟子たちの思いもしなかったことが起こったのです。聖書には「夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところへ行かれた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。イエスはすぐ彼らに話しかけられた。『安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。』・・・イエスが『来なさい』言われたので、ペトロは舟から降りて・・・」（同 14：25-29）と続いて行きます。主イエスは湖上を歩いて、嵐に怯える弟子たちの所へ行かれた、つまり、主は奇跡を起こしてでも弟子たちのところへ行かなければと思われたのです。昔から海の上の小舟の姿は教会を表すと言われています。教会が困難に見舞われて苦しみの中にある時、主は奇跡を起こしても来られるのです。また荒れる湖上を漂う舟は、私たち自身の姿でもあります。何にも見えない暗闇の中でもがいている時、主の方から私たちを見つけて近づき、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と言ってくれるのです。

このように聖書が伝えようとしているのは、<私たちの主であるイエス・キリストは、私たちを救うために奇跡さえも起こされる。そして、クリスマスとは、まさにそのような出来事である>ということです。子どもの頃のことですが、通常ダビデの星が取り付けられているクリスマスツリーのてっぺんに、ダビデの星の代わりに十字架が取り付けられている巨大なツリーを見たことがありました。子ども心にも驚いた憶えがありますが、まさに十字架にかかるために人となってこの世に来られた救い主の誕生日がクリスマスなのです。

さらに、主イエスは家畜小屋で誕生されましたが、家畜は人間のためにミルクをささげ、労力をささげ、最後には自身の肉をささげます。十字架の上で血を流し、肉を裂き、すべてを私たちにささげ尽くされた、主の誕生の場所が家畜小屋であったことは、決して偶然ではありません。湖上を歩いてでも私たちキリスト者を、教会を救うために来てくださる主。十字架上で血を流し、肉を裂いてでも私たちに救うために来てくださる主を、妨げるものは何もありません。

パウロは、「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主イエス・キリストによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことは出来ないのです。」（ロマ 8：38・39）と語っています。まさに、これがクリスマスなのです。

（説教要約 羽入田悦子）